

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年5月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105156
法人名	有限会社アクティブヒューマンライフ
事業所名	グループホーム甲突悠暮里
所在地	鹿児島市郡山町68番地 (電話) 099-245-6030
自己評価作成日	平成27年3月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年4月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はご利用者の心身状態は日々、変化しているを合い言葉に、ご利用者が安全で安心して暮らしていけるようその日のご利用者の状態に沿った介護に努めている。また、ご利用者のご家族とは連絡・連携を密にして、ご家族からの要望を取り入れた支援に心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎える当ホームは郡山の市街地にあり、田畑や山々の景色が望める自然豊かな地に建てられている。同じ建物の1階には系列のデイサービスと小規模多機能ホームも併設されており、地域の高齢者福祉を担うべく拠点として管理者、職員は一丸となり、地域交流にも力を入れている。

居室にはそれぞれトイレ、洗面所が設置されており、昼間も殆どの利用者が専用のトイレを使用することができ、プライバシーも確保されている。排泄チェック表を基にした誘導でトイレでの排泄の自立に向けた支援が行われ、改善に繋がったケースもあり、家族から喜ばれている。

管理者や職員は常に理念の根幹にある「その人らしさ」を大切に考えたケアを重視しており、機会をみては理念を振り返り、利用者個々の想いの汲み取りに力を入れて取り組んでいる様子は、職員の聞き取りからも伺える。

管理者は職員からの人望も厚く、気軽に相談できる雰囲気があり、職員はストレスを溜め込むことなく働きやすい環境にあり、サービスの質の向上にも繋がっている。

看取りの実績もあり、希望に添って利用者の終の棲家となっていることから利用者や職員が一つの家族の様にほのぼのと、暖かみが伝わって来るホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念を事業所に掲げ、申送り時やミーティング時に確認しながら業務にあたっている、	開設当所、職員で話しあった理念を掲げている。「その人らしさ」を重視し、利用者の個々の想いの汲み取りを大切にケアに取り組んでいる。職員全員で理念の中身を共有し統一したケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元で開催される行事(郡山文化祭・地域運動会)、清掃に参加したりしている。また地域のボランティアに来ていただき、交流をふかめている	自治会の回覧板は、地域の情報収集やホームの情報発信の役目になっている。高校生のインターシップや演芸ボランティアの受け入れもある。町の文化祭には、利用者の作品を出品し、絵の得意な利用者は張り合いを持ち作品作りに精を出している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域包括支援センター主催の「認知症の理解やその対応」研修の講師役となり地域の民生委員の方々などへ講義や事例発表などを行なっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地区長、地域包括センターの職員の参加をいただき、地域運営推進会議を開催している。その中でご利用者の状況や提供しているサービスの実際を報告している。	2カ月に1回の定期開催である。殆どがホームの現状報告や地域の高齢者の支え合い活動についての議題で終止し、会議の内容にマンネリ化の傾向がある。民生委員、地区会長、地域包括センター職員の出席の他、家族の参加は得られていない状況である。	運営推進会議の目的をホーム自体が再認識することで、固定化された会議内容の見直しを行い、家族参加の呼び掛けも工夫するなどし、充実した運営推進会議となり、運営に反映されることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に実施しているとはいえませんが運営推進会議で困難事例などを報告し、相談や情報の交換をしている。	運営推進会議の出席をはじめ、支所もすぐ近くにあることから困難事例や人員不足の相談をすることもあり、適切に対応してもらっている。「認知症の理解やその対応」についての講師の依頼もあり、双方で協働の関係が来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は身体拘束について正しく理解している。またミーティングなどで「身体拘束がもたらす弊害と「緊急時の身体拘束」について話し合い意識して業務にあたっている	不意の立ち上がりでリスクを伴う利用者には常時、見守りを強化しており、行動を尊重し、さり気無く付き添うなど抑制のないケアに努めている。研修やケア会議、勉強会で具体的な拘束の事例を挙げ意見を出し合い検討まで繋げている。言葉遣いや長時間の座位などあらゆる場面での拘束に関して、職員は知識や意識を高く持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についてはミーティングの中で勉強し、管理者・職員は周りの状況に気を配りながら虐待がおこらないように注意をはらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、外部での研修などで学ぶ機会も多く、活用するときもあるが職員については学ぶ機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様、ご家族には十分な説明を行なうとともに、不安や疑問点については、おききし、理解、納得されるまで話をしている。また契約後についても、不安や疑問点が出てきた場合には、その都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談受付者解決責任者、第三者委員を設けて、苦情対応をおこなっている。また、意見箱を設置している。	家族の面会が多くあり、意見や要望の聞き取りの大事な機会と捉え、ケアに反映させている。遠方や来訪の少ない家族にもホームでの利用者の生活の様子や現状を分かって貰うためにも、今後は中断しているホーム独自の通信の再開を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内の各委員会やミーティング等で意見や提案など取り入れ運営に反映している。	月1回、ケア会議を開き、出席できない職員は事前に問題提起やアイデアなどを提出する方式を採っている。毎回、活発な意見が出されており、運営に反映されている。管理者は常に職員が相談し易い雰囲気作りに努め、信頼関係を築いている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行ないながら職員状態を把握し各職員が向上心をもって働けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>その都度、個別指導を行ない一人ひとりのケアの力量を把握するよう努めている。法人内の研修への参加は出来ていたが外への研修に参加する機会がなかった。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在グループホーム協会や協議会の加盟はしておらず同業者との頻回な交流は出来ていないが包括支援センター主催の交流会等へ参加したり今後は協会等への参加も検討している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人が不安なく安心して暮らしていけるよう何気ない観察を行い、常にご本人と話しながら信頼関係を築いている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>困っていることや不安なこと、要望など、ご家族の目線にたって対応している。いつでも相談できる環境づくりにつとめている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人及びご家族の状況をお聞きし今必要としている援助を実施している。またご本人の心身の状態に応じて、ご本人及びご家族の同意を得ながら、援助の変更を行なっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>常にご利用者様と息を語り、行動し、同じ空間を共有しているという気持ち持ちながら支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族の立場にたって、思いを語り行動しご家族と一緒にご本人を支えているという気持ちを持ちながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設で生活するだけではなく、ご家族相談しときには自宅に外泊してみたり日帰りで帰宅してみたり、ホームのほうに来ていただいたりし、出来るだけ馴染みの人たちや場所との関係が途切れないように支援している。	家族の面会は常時ある他、自宅近辺の馴染みの友人が遊びに来たり、ホーム周辺の散歩時に住民と挨拶や会話を交わす機会も多くなっている。受診の帰りに墓参りに寄ったり家族がお寺に連れて行くこともあり馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者間の関わりの状況を常に把握しながら、そのときその状態に応じて職員が付き添いながら、孤立しないように援助している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所されてからも関係を持ち続けている。必要などときには相談に応じ、在宅生活を支援する努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握につとめている。また、困難な場合は、本人本位に検討している。	思いの汲み取りには力をいれており、入居時の基本情報の把握や家族からの聞き取り、日頃の所作や表情を細かく観察し職員間で共有することで、個々の希望や意向を汲みとる努力をしている。記録に残しプランに反映できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族との面談で出来るだけ詳しく生活歴や、暮らし方、生活環境をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身状態を把握しそのときその場に応じた声掛けを行ないながら、残存機能を生かしてもらうように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや、ミーティングで提案された事項について、ご本人やご家族と意見交換をおこないよう要望にもとづいた介護計画を作成している。	管理者は、職員が利用者のこれまでの生活歴を理解し、日々の記録の際はプランを確認するように指導している。本人、家族の意向を採りいれケア会議で職員間で話し合い、意見やアイデアを採りいれて現状に即し個別性のある介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や援助の実践・結果・気づきなどはその都度記録するとともに、報告をきちんと行い職員間で情報の共有化をはかっている。また利用者様の状態の変化については日々の援助及び介護計画の見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望におうじて、柔軟な支援をおこなっている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向や必要性に応じてボランティア、文化、教育機関等と協力しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との関係は良好に保たれている。ただ必要時に応じては、ご本人やご家族の希望や意思を尊重し他の医療機関と連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前の掛りつけ医を継続している利用者もいる。他科を含め受診の際は家族と共にホーム側も必ず同行し、情報提供や受診経過を確認している。月2回の訪問診療もあり、夜間帯の緊急時の対応も協力医との連携が取れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護師と連携体制をとりながら日常の健康管理や療養上の支援をしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入院した際には、詳しく状況の提供を行なうとともに出来るだけ早期に退院」できるように、常に病院との情報交換を密に行なっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事前に重度化した場合や終末期のあり方については、ご本人、ご家族、かかりつけ医と話し合い、必要に応うじては書面に同意を頂き、全員での方針を共有している。</p>	<p>これまでに看取りの経験もあり、重度化した場合や終末期のあり方については指針を定め、入居時や利用者の身体状況に応じて「看取りの同意書」も交わしている。段階に応じ意向の確認を取り支援している。職員も研修を通し看取り期の対応を学び、一丸となりホームで出来る最大限の支援に取り組んで知る。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故の発生時及び緊急時の対応について</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に消防署職員の立会いのもと、避難訓練・通報訓練・消火訓練を実施している。また、年に1回は夜間時を想定した訓練を行なっている。近隣の協力体制をお願いはしているが参加までにはいたっていない</p>	<p>消防署立ち会いの避難訓練訓を行い、地区代表の参加を得て運営推進会議と合同で行うなど工夫もしている。今後も地域住民の協力が得られるように働きかけを継続すると共に、訓練内容を具体化し系列施設との協力体制を含め、災害時の備蓄も検討していく方向である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーに配慮した言葉掛けや援助に心がけて対応している。	これまでの生活歴を把握し、誇りやプライドを傷つける事が無いように職員は言葉遣いや接遇には注意を払いケアに当たっている。排泄時は居室のトイレを使う利用者が多く、プライバシーに配慮した対応である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	結論を急がすような言葉掛けを避け、常に傾聴の姿勢で支援している。また利用者様個々に、事前に理解できるような説明をしながら、事故決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の心身状態を考慮し、思いを尊重しながら希望にそった支援に心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日の気分に合わせて衣類の選択など声掛けを行ないながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の個々の機能を活かしながら調理の手伝い、後片付けを職員と一緒にやってもらっている。	ケアの充実を図り、現在はご飯、味噌汁以外の調理は外注としている。届いた食事は個々の嚥下や咀嚼に応じた形態で提供している。おやつは職員の手作りであり、誕生日には希望食を出し、花見弁当や年末のそば打ちなど季節感も大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、刻み食や一口大・ミキサー食等の提供を行なっている。水分の摂取状況がうまくいかないご利用者様についてはとろみやゼリー状にして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食跡に口腔ケアを実施している。介助が必要な利用者には介助にて清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレへの誘導を声掛けにて行なっている。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握しており、適時の声掛けや誘導でオムツから布パンツに改善した例もあり、利用者の自信や誇りにも繋がっている。夜間帯もトイレでの排泄を支援し現状維持や改善に向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の実施や定期的な水分補給に努めている。水分量はチェック表に記入し摂取量の状態を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	施設側である程度、曜日や時間帯を決めて入浴のお願いをしているが必要に応じては一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯は決めてはいるが、利用者の希望に応じ柔軟に対応している。風呂場にも季節に応じた飾り付けをしている。入浴剤を入れたり、入浴をためらう利用者には好きな民謡を流すなどし入浴が楽しみな時間になるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に合わせて休息したり、眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員のすべてが薬について完全に理解しているとはいえない。しかし各職員は処方箋を熟読し、副作用や服薬する上での注意事項などを理解しながら、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに沿った支援を目標に努力はしているものの、難しいときもあるが、好きなこと興味のあることを継続して行なえるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って園外に出かけられるよう支援している。ご家族からの希望にも沿えるよう支援している。	ホーム周辺の散歩は日常的であり、近隣住民とも顔馴染みの関係である。スーパーへの買い物や家族とドライブに出掛ける利用者もいる。花見や地域の運動会、文化祭など折に触れ外出の機会を多く持てる様に支援している。今後は利用者の希望も採り入れ小グループで交代で外出できるように検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、ご利用者の希望に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	家族や大切な人に電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共用の空間は広く明るい構造になっている。窓越しから木々や草花が見え、季節を知らせてくれます。テーブルにも花など飾り季節感をだしている。	2階に位置するホームのリビングからは田畑や山々の風景が見渡せ、季節の移ろいを感じられる。ベランダに面して小さなテーブルを設置し、お茶を飲んだり職員とおしゃべりを楽しむスペースも工夫されている。季節の花や、利用者の作品を飾り、自由にゆったり生活できる共用空間になっている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共用の空間の中で一人になれる場所はないが、気のあったご利用者同士で過ごせるようテーブルを設置したり、八畳の和室があり和室でゆっくりすごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ともトイレ・洗面所が設置されておりプライバシーも押領されている。また、ご利用者、ご家族と相談しながらご利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	週に一度泊まる家族もあり、床に畳を敷いている利用者もいる。同時に転落や転倒リスクの配慮にもなっている。位牌や神棚、テレビや冷蔵庫など馴染みの深い品を持ち込み、個々に安心してくつろげるプライベート空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体が、ほぼバリアフリーとなつている。。ご利用者様が安全に自由に生活が出来るよう職員は環境整備に努めている。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない